京城新報

人の生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可からず

明治四十四年紀元二千五百七十一年
定價　一枚金二錢▲一ヶ月前金三十錢▲三ヶ月前金九十錢▲六ヶ月前金一圓八十錢▲郵税一ヶ月十五錢
月曜日及び大祭日の翌日は休刊（日刊）
廣告料　▲五號活字十七字詰一行金五十錢▲特別欄特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢
發行兼編輯人　高木久太郎
印刷人　松久耕一郎
發行所　京城西小門通　京城新報社
電話六大三番・振替口座京城四五六番
仁川支局　仁川宮町三丁目　電話二一一番
東京支局　東京市京橋區南佐柄木町七番地

雜報

●架橋後の安東縣

安東縣路客の談に曰く安奉線工事竣工後は秘かに安東縣の衰微を見るべしと豫想されて居たるに鴨綠江架橋後は列車は直に安東縣驛に發着することゝなりたるにより從來新義州に宿泊したる旅客は悉く安東縣に宿泊することゝなり旅館の如きは却て繁昌しつゝあり▲安東縣驛の收入は狹軌時代は一日七八十圓に過ぎざりしに廣軌開通以來は一日七八百圓あることゝなり逐日收入增加の傾向あり▲沙河鎭驛は安東支那市街の貨物出入の要衝に當り小驛なるにも拘はらず一日七八百圓の收入ありて其の多くは貨物收入なり然れども貨物の一車扱ひを爲さゞるにより貨主不便を唱へつゝありと▲兩驛に對する發着貨物日を追ふに增加の傾向あり昨今の托送貨物は主として支那雜貨なるも早晩木材及び鮮米の如きも續々托送さるゝに至るべき見込なりと云々

●滿鮮直通契約

過般奉天に於て日清兩國代表者間に於て締結せられし滿鮮直通契約は十五日發表せられしが其要領左の如し

一、兩國政府は世界交通の爲め兩國々境列車直通連絡を約す
二、列車直通の爲め鴨綠江の鐵橋上は其中央を以て國境とす
三、列車國境を通過する時は機關車を附代ゆべし
四、兩鐵道列車は安東縣驛にて手荷物の檢査を行ふ
五、兩國稅關官吏は各本國稅關規則により安東縣驛に於て檢査を爲す
六、國境を通過する列車は條約に依り駐屯を許されたるもの〻外軍隊を轉送するを得ず
七、今後五ヶ年清國政府に於て安奉線を買收する時迄其條約を適用す

●鴨綠流域の獸皮

鴨綠江流域に於ける獸皮は從來奉天に於て賣買の取引をなせしも三十年前鳳凰城に變し最近には義州對岸の中江臺に於て清商に放賣されたるが現在は寧ろ義州に於て取引するの狀態に變したりと云ふ而して其種類は貂皮、虎皮、水獺等を主とするも最も多きは牛皮なりと云ふ從來は流域に產する獸皮は概して一地方に集中せしも昨今鴨綠江の上流に於て住民の發展せし場所多く從て對岸の清國に向て直接賣買するもの生したるため下流義州方面に集るもの少なくなりしとの事なり

●國境の牛皮需要

鴨綠江國境に於ける朝鮮產牛皮の需要は莫大なるものにして過般當地の某商會が朝鮮に於ける牛皮の一手輸出を企つるや安東縣にては直ちに品薄となりたるため價格非常に暴騰して朝鮮產の買入に從事し遂に平安道方面の產品は悉く安東縣に向ふ事となりたりと云ふ而して同方面に於ける牛皮の使用向は主として烏拉靴と稱する北清の勞働者等が防寒靴に製するためなりと云ふ

雜錄

●食客論（下）

橫行濺人

僕は想ふに現代の食客には程度が低くなつた感がある、高等食客である僕でさへ橫の物は縱に爲して働かねばならぬ東京の赤門に通ふ未來の博士連も多くは食客にて暮らして居る、寄宿舍よりか氣品の高い家に食客となつて學校に通ふが僕等の人格を損じない處と思ふて居た。

近代に於ける程度の低い食客は日本に於てさへ幾萬人なるやを知らない、向後の舞臺に打つて出る否出なければならぬ、僕等食客先生の立場として修養を積んで他日大なり小なりに、社會の爲めに奮鬪努力を要するのである。

今や支那には革命亂がある、面白い時勢となつた。

顧つて我日本を觀察すると、每年五十萬の人が增加して、人物にならんと欲する多くの人が、隨分手を釣して居る、既に此朝鮮は狹い國が生じてるから一番蹶起して日本男子の活動する處は那邊にあるか、食客先生よ山田長政は偉らいではないか。

國際上でも隣國に於て亂在る時、個人としてなら何んの苦情を他國から持出さるゝ處がない相であるが然し命を捨てゝも金の勳章を貰へない事は斷つて置く。

嗟志のみ大にして、社交に入れられざるを慨げく、其失戀兒を自らあはれむ者よ、セシルローズ氏も失戀兒である、名高い白衣の將軍も失戀兒であつた、ポルチオを殺めた英國の一商人の息子も、斯く記す失戀となつた動機に祖國を去つて世界に輝く名を揚げたのである、個人ぞよし個人ぞよし、個人なら何處から尻が來るとも、如何ともする由がない。

生海鼠のやうな腹綿を持つ僕でさへ此食客論を記して世に問ふのである。

外事一束

▲廣東　佛領事革黨の運搬に對し各國領事に率先して公文を送りて曰く一切事務は舊に依り辨理すべし貴政府外人保護の周密なる感謝に堪ずと
▲香港　清國民間革命黨に廿万圓の軍資金支出を要求され既に其一半調達す
▲駐英　伊大使伊土戰爭は伊が奴隷の境に在る多數亞弗利加人を救濟し以て
▲文明　の域に彼等を導きトリポリに文明的都市建設の目的に起因すと語る
▲巴里　飛行家……は四名の乘客と共にランスプワン間……を一時間に飛行
▲爆發の傾向ある英國鑛夫及人夫同盟罷業は昨今防止し得べき形勢を示す
▲戒嚴　令チュニスに布かる遂に伊太利人反對の狂熱的運動盛なるに由ると
▲獨逸　聯邦バイエルン二代議院の中央黨政府の政策を妨害し解散を命ぜらる
▲葡國　內閣更迭行はれファスコンセロス氏に總理及び外務大臣兼任を命ず

總督御常用　堅牢無比　鶴屋式木履　京城鶴屋

梁川庄八（やながはしやうはち）

小金井蘆洲演

第三十九回

村「ヒエー手前共は當和泉村の者で、名主樣始め役付一同の者でござります、最前あの場で御禮を申上やふとは存じましたが、お代官樣へ夭では面當がましく相成りますで、遠慮を致し當村へ御出と云事でござへましたから、先へ此處でお待ち申ました次第で、孝太郎儀につきましては誠に有難とうでせへまして　庄「アー然うか……イヤ別段禮には及ばん、孝太郎は何うした、役「ヒエー歸宅致して居りますでごせへます　庄「其孝太郎方へ一寸案內を致してくれ　役「畏りましてごせへます、早速御案內申上げます、ヤー重兵衞仙臺の御浪人の旦那樣が孝太郎が家へ御光來になると云だで、我れ一足先へ知らして置てくんろ」定使の重兵衞を先へ走らしてやつた、此方は孝太郎は梁川の害に虎口を逃れて喜びつゝ、我が家へ歸り母親に、今日の相撲の概略の話をして　孝「阿母さん其梁川樣と云ふ御武家樣が出て下さらなければ、俺は何んな事になつたか判らねへだつたよ　母「オヽ左樣であつたか危ない處だつたな、其武家樣はお前の爲には助けの神樣だ是と云ふのも日頃信心する御陰で、其御方が御出なすつて下すつたんだ、マア一時の難儀は救つて下すつて難有いが、是から後が心配だあな、太い者には呑まれろ長い者には卷かれろと云譬があるから、お代官樣にお憎しみをうけて無理難題を云掛られねへとも限らねへが、何は兎もあれ困つた事になつたのふ」と涙を浮べて母が心配一難を逃れて又一難、何と云解く術もなく呆然として居る、門口から急いで飛込んで來た、定使の重兵衞「孝太郎どんマア目出度かつた、彼の時は何うしたら能かんべゑと思たが、御浪人樣のお陰で宜い鹽梅に歸れたのは何より幸ひだつた、そこでお主が歸つた跡が大騷動だ、彼の御浪人樣と鬼面山の取組になると、鬼面山の野郎敵わないと見た者だで、逃手を出しやがつた者だから、お武家樣は怒つて反對に逆手で鬼面山を投殺して了つたゝ、するとお代官樣が偉らくおこんなすつて、手論になつたゝ、何でもお浪人を繩をかけて陣屋へ引立ると云騷ぎだ、此處が腕も强い力もあるが理屈も强いだ、遂々終局にはお代官樣が理屈詰になつて了つて詫まつたゞ、加之に詫證文まで取られたと云圖でな、メチャ〜に成て宜い心持ちだつたよ……、就いて彼のお武家樣がお主に會うだと云ひなすつて、今名主樣や何かが案內をして此處へ御光來なさるだから、其の心算でな御出迎ひをしなくつてはいかねへだ」孝「アレ然うかゑ……阿母さん助けて下すつた旦那樣が御光來だとさ」母「オ、然うか」親子は喜んで定使の重兵衞も手傳つて掃除などをする、孝太郎は表へ出て見ると、向から村役人が案內をして遁つて參ります、大地に平身低頭をして待受ける　孝「ヘエ先程は誠にはや有難う存じまして、お陰樣を持ちまして命拾ひを致しました、何とも御禮の申上やうも御座りませぬ」庄「オ、孝太郎か個々出迎ひなどを致すに及ばぬに、サア其方の家へ案內を致せ　孝「へイ〜是れが私が家でござりまして賊に擲ねへ處でございますが……阿母さん先刻のお旦那樣が御入來下さいました何うぞお目に掛つてお禮を申上げて下さいよ」表に立て庄八家の有樣を見ると、軒は傾ひき柱は朽ち家根は破れ壁は落ち、居ながらにして日月星の三光が拜せられると云家だ、梅ヶ香や乞食の家も覗かれる、家貧うして孝子現るゝと云ふが斯の住家か、と庄八に涙を催しました、何うも世の中の事は自然に任かぬ者で、門地の高い豊かな家に生れて充分家庭學問の教育を與へられた人が孝子でありさうな者が、却て然う云人は長ずるに從ひ放蕩に流れて不孝者が出來る、貧乏で何も教育を授けぬ眼に一丁字のない者に非常な孝子が出ると云ふのは如何なる者で御座いますか、表に佇む梁川は襟に强い人ですから一層感じが激しい　母「ハイ……入來いまして、只今伜からも重兵衞どんからも承りましたが、今日は孝太郎めが災難の處を御救ひ下さいました旦那樣、有難う存じます若しも伜が怪我でも致しますれが何が生きては居られませんで、親子兩人の爲には命の親樣……」御禮は言葉には盡されません」隨喜の涙を浮べて禮を述べました。

早酒有薰限

廣告

利息改正
一金五十圓以上百圓以下一ヶ月二分五厘
一金百圓以上一ヶ月二分
右之通改正仕候也
尙精々勉强仕り多額御用立可申候間多少に不拘御用命之程奉乞願上候也
長谷川町一丁目聯隊前小路
櫻谷質舖

高島易斷
旭町一丁目御嶽教大講義
山の內

內外科　小兒科　梅毒淋病
京城旭町三丁目
高井醫院
電話二一六番
小兒科專任　大阪醫學士　植利彥
院長　陸軍軍醫正　高井貞治

京城北米倉町（婦人病院向側）
注連內齒科醫院
院長　從七位　注連內堅石
電話八一二番

清酒値上廣告
內地相場益騰貴ノ爲メ本月貳拾日ヨリ左記之通値上仕候間何卒不相變御用命之程奉希上候
一大樽各種壹樽に付　金壹圓
一半樽同　金五拾錢
上
明治四十四年十一月
京城酒商組合

十一月二十二日より二十八日まで
兌の大賣出し
見切反物つり切等澤山
大安賣
京城本町二丁目
兌ます屋
吳服店
電話四八三番

本院　京城櫻井町
內科小兒科　姬野小兒科醫院
院長　醫學得業士　姬野隼次
分院　南大門外

▲診察夜九時まで▼
京城本町一丁目
內科外科　石川醫院
電話三三番
▲入院室滿員▼

眼科
移轉診療
左の處に從前の通り診療致候
京城明治町三丁目本通り（東洋拓殖會社南側）
江頭眼科醫院

●荒物●軍隊用品
卸小賣
京城明治町一丁目
松村太郎商店
▲地方よりの御注文は便利の方法にて御送附申上候

土地建物鑛山株券賣買
一市內宅地賣渡たし
一市外田畓山買受たし
一鐵鑛區權利讓受たし
一恰好なる住宅賣物あり
一有望なる采掘地權利讓物あり
一電話賣物あり
小林藤商店
京城明治町三丁目　電話六五五番

제824호 1911. 11. 21.

東京電報

▲大元帥陛下還幸　大元帥陛下には十九日午後四時御還幸相成りたり新橋停車場には皇后陛下を始め文武百官の御出迎盛んなり

▲清國公使外相訪問　汪清國公使は二十日午後三時頃書記官同伴内田外相を訪問の上本國政府よりの電命に接し何事か傳へたりと聞く

▲南京危機累卵の如し　在南京鈴木領事發電に依れば鎮江には十三隻の軍艦あり皆白旗を掲げ革命黨は左腕に白布を纏ひ進軍の準備を急ぎつゝあり徐師團長は昨日當地に歸來せり

▲英佛艦上海入港　佛國軍艦ライビチヒ英國軍艦アラクリチー號は十七日上海に入港せる旨着電ありたり

▲關門海峽工事遂行　關門海峽は本年度より繼續事業として毎年百萬圓づゝ支出し五ヶ年を以て改良工事及浚渫工事を完了する筈なるが昨今大藏省にて消極的方針を採る結果明年度まで事業着手を延期すべしと傳ふるも關門海峽は目下我國の咽喉とも稱すべき重要なる個處なれば財政上の都合にて明年度に延期するが如きは斷じてなし右は全く無稽の説なりと水野局長は語れり

▲革軍夜襲を試みん　在漢口川島第三艦隊司令官發海軍省着電に依れば兩軍共形勢差したる變化なしと雖も革命軍は近き程に夜襲を試むべく準備せり又官軍も之れに對し備ふる所ありとの説頻々たり

上海特電

▲汕頭税關と臺灣銀行　汕頭の税關は個軍團の抗議に依り徴收關税金の保管を全部臺灣銀行に委囑せり事態切迫せるもの〻如し

▲南京附近の激戰　十七日南京鎮江間の鐵道線路に沿へる高資竟源間に於て官革兩軍は愈々一大決戰を開始し目下激戰中にして勝敗未だ容易に決せざるもの〻如し

北京特電

▲革軍安慶を燒く　安慶よりの報導に依れば革命軍は富豪に對して寄附金を求めしに富豪は之を拒みたるより其家に放火し多數の人民は避難し外國人亦立退けり火災は翌朝まで燃えたり尚聞く處に依れば巡撫朱家寳も亦避難したりと

▲宣教師殺害せらる　西安に於て佛國郵便局長及宣教師殺害せられたりとの報導ありたり

▲官軍宿營に窮す　十六日より十七日朝にかけて官軍は漢口を燒きたる爲め宿營するに家なく甚だ困却しつゝあり

▲廣東軍湖北に向ふ　八千の軍隊は湖北に向け廣東を出發しつゝあり

▲官軍士氣阻喪　漢口發　一軍司令官懇願頃は陸軍部に向け四ケ條の意見書を提出したり其要領は漢陽總攻撃の準備なりたるも糧食彈藥缺乏し攻撃を爲す能はず今や長江一帶の艦隊は悉く革命軍に降り鎮江にあり南京城にして陷らば遡江して漢口を攻撃すべく漢陽總攻撃を速にするの必要あり然るに糧食彈藥の缺乏依然たるに於ては志氣沮喪し加ふるに第二師團長馬龍標第三旅團長王古元の率ゆる部隊は逃亡者續々相踵ぎ志氣大に衰へたり之れ他なし糧食彈藥の欠乏休發の汎からざる爲なり革命軍新に上海より兵器を輸送し彈藥の充實を爲すべし然れば速に糧食彈藥供給を忽にすべからずと

▲度支部支拂停止　度支部は國庫窮乏の爲め餉糧の支出を停止したり

▲支那新聞の内閣觀　袁の内閣々僚中には各方面より人材を撰拔したるも人心を新にする程の閣員を網羅する能はず支那新聞は何れも冷笑を以て迎へつゝあり

▲革命黨員死刑　北京にては革命黨の嫌疑者を捕へ死刑に處せり

▲獨逸の銃器賣込　獨逸は革命軍に對しモーゼル銃一百五十挺を賣込みたりとの確報あり

▲薩提督の捕虜説　海軍大臣薩鎮氷は革命軍中の捕虜となり居れりとの説あり

紐育特電

▲獨皇儲の謹慎　伯林來電によれば獨逸皇帝は議會に於て閣員ホルウエーヒ氏のモロツコ協約に關する演説を非難したる廉により皇太子を三十日間ダンチヒ宮に謹愼すべく命ぜられたり

▲ル氏の夕氏攻撃　前大統領ルーズヴエルト氏はアウトルツクに於てタフト内閣のトラスト征伐政策を攻撃し右は破壞的なるが上杜撰極まるものにして法律上何等の根底を有せずと演説せり

雜報

●郵便貯金現計　東京郵便貯金局調査の廿日通信局に達したる内地朝鮮滿州臺灣樺太等を通じたる十月末日現在貯金現計を聞くに其の人員一千百五十八萬〇〇八十五人にて同金額一億八千二百九十九萬三千二百五十六圓なりと

●動亂と國境貿易　度支部第五回調査に係る清國事變の貿易及經濟に及ぼす影響を記せば大要左の如し

（甲）新義州に於ける影響

（一）金融　當地に於ては今日迄別段影響を認めず

（二）商取引　當地内地人鮮人清人相互間の商取引については目下の處未だ其影響を認めず在留清商の本國に對する取引に付ては延取引を停止せるもの一二あるが如し又た安東に於ける清商間取引狀況左の如し
從來の延取引は一般に停止せられ確實なる先に對しても五日以上の延取引行はれず且大口の取引皆無にして去月二十日以後南清方面よりの入荷殆んど無く僅かに市面に於ける小口貨物の取引あるのみ

（三）海運界　當地と上海及北清間航通船舶なし滿洲各地との航通は今尚何等影響を受け居らず

（四）輸出入貨物　安東の清商偸々として取引を手控へ且上海商取引休止し芝罘商取引亦圓滑を受くに至りたるを以て上海芝罘方面よりの安東入荷減退し從て安東在荷潤澤を缺き市價漸騰を告げつゝあるを以て安東より輸入する鮮人向物資は一般に仕入不如意を訴へつゝあるが如きも冬季仕入は大体一段落を告げたると安東縣變亂の影響を受けてより未だ多くの月手を經過せず安東物價も未だ差したる騰貴を見ざるが爲め今日の處輸入貨物には未だ具体的の影響を見ず（つゞく）

●資本家と朝鮮の鑛山　…大塚鑛務課長の談…
既報の如く藤田組にては江原及忠北兩道に於ける所有鑛山の外更に南鮮地方に於て鑛區の採探に從事しつゝあり其他岩崎古川等の内地大資本家等も昨今漸く朝鮮鑛業に着目し資金を投下せんとする模樣なるが夫れに就き大塚鑛務局長の語る所を聞くに目下朝鮮鑛物中最も主要なるものは金及び銀鑛にして此の二種の如き日本内地に於ては漸く不足を告げ若くは其鑛脈を絶たんとするものにて朝鮮に其有望なる鑛床に富むは實に喜ぶべきことにて朝鮮鑛業の開拓は當分此の兩種の發掘を以て足れりとすべし其他朝鮮有望の鑛物としては黒鉛及び雲母の二種あれど黒鉛は假令之れが發掘を盛ならしむるとするも目下は其の販路杜絶し居り雲母も亦全く之れが供給先を發見するにあらざれば徒らに發掘を企つるも無益の事業に屬すべく從つて昨今内地資本家等の鑛區發掘を出願する者も其の發掘鑛種は金にして其の重なるものは古川組の千萬坪、安川組の千萬坪にて其出願地域は共に平安北道内鑛種は金或は砂金等なり云々

●食鹽の移輸入狀況　總督府調査に係る本年一月より九月末日迄の間に於ける日本内地及清國并に露國等より朝鮮に輸移入せし食鹽總計を聞くに總斤數九千七百六十四萬三千五百八十一斤にして此鑑定價格四十万五千七圓なるが之れを過去三ケ年間に於ける輸移入額に比較すれば四十三年は九月迄にて七千百十六萬八千八百斤四十二年は九月迄四千四十九万二千六百斤四十一年は九月迄五千三百七十三萬六千四百斤にして本年は著しき增額を見たるものなり而して輸移入の最も多きは鎮南浦港の四千万斤を第一として仁川二千八百萬斤釜山二千三百萬斤元山二百五十七斤等にて釜山港が比較的少額なるは漁業用食鹽の無税なるもの多きに因るといふ

●鐵道ホテル計畫　總督府にては愈々明年度豫算に計上する事となし約百餘万圓を投じ二三ケ年の繼續事業となし京城に第一着に建設する事に内定したりと云ふ尤も京城に於ける鐵道大ホテル竣工に先ち釜山及新義州停車場を利用してホテルを開業するか目下當局に於て研究中なりと云ふ

●動亂と在留清人　…鎮清國商務書記長談…
▲在留民と集會所　京城に在留せる清國人は一千五百餘人にして内一千人は商人他は重もに勞働者なり出身地は大低山東省にて他は極めて稀なり、在留民の集會所としては從來華商總會等なるが同會は自治及び商工業の機關として一般在留民の福祉と利益とを圖りつゝあり
▲取引停止は無根　去る十三日華商總會の集會に於て這回の時變に際し各銀行業者が在留支那人に資金を貸與せざる爲め一般取引の停止を決議したるものゝ如く風説する者あるも右は無根の流言に過ぎず十三日の集會は新に商業會議所を設置せんためにして斯かる決議を爲したるには非ず又在留支那商人の十中の九迄は何れも獨立し營業を爲し得べき資力を有し居るを以て銀行業者より資金の供給を仰ぐの要殆んどなく從つて取引の停止等の決議をなす謂れなし
▲民心至つて平靜　在留民中或は取引上若くは家族扶養の爲め本國に送金するものあるは平素と何等異るところなし、又親戚知己の關係上書面の往復をなすものも亦同じ。然るに在留民にしてこれを以て本國に送金するものあれば直ちに之れを以て革命軍の資金を補せんが爲め送金するものなりと見做し又は書面の往復あれば之れ又革命軍と氣脈を通じ居るものとなして揣摩臆測を逞うするものあれど畢竟之等は無稽の説のみ、否な在留民等が一點不穩の擧動なきは勿論既に日韓併合後治外法權の撤去されたる今日朝鮮に於て輕率に事を釀すの不穩當なる事は何人も熟知するところなり、されば在留支那人は至つて平靜の狀態にあり又上海及び南清各地の方面よりも輸入品續々として到着し商業上別に打撃を蒙るものあるを見ず
▲經費募集の臆測　馬總領事は經費の支出に窮し依つて窮餘の策として京城在留民より右資金を募集しつゝありとの説世に行はる、されど是等は根もなきことにして何人も是等の交渉を受けたるものなきや必せり
▲朝鮮輸出の麻布　序を以て言はんに清國より朝鮮に輸出する麻布は概ね織品にして產地は廣東省に於ける汕頭地方、江西省及び蘇州附近とす而して蘇州品は價格低廉なる代り品質良好ならず汕頭品は品質良好なり、種類は固より一ならずと雖も加工せるものを以て優良なるものとす、尚一個年間の輸出高は日本よりの輸送とも合せ二萬餘擔なり

●各道學務主任會議　總督府に於ける各道學務主任會議は既記の如く二十日午前九時より司法部會議室に於て開會當日の列席者は宇佐美內務部長官以下各關係局課長並に京畿道學務主任外十六名にして午前中は宇佐美內務部長官の新教育令並に寺內總督の教育諭告に基き詳細なる訓示關屋局長の訓示等あり午後より關係事務に付き打合せを爲し午後四時散會したり因に會期は豫定の如く二十日より二十二日迄三日間なりと云ふ

●政務總監の招待　山縣政務總監は二十一日午後六時より同官邸に目下來京中の各道學務主任を招待し晩餐の饗應ある筈

●朝鮮需用の麻布　清國より朝鮮に輸出する麻布は近年著しく增加せるが要するに清國各地方より最初上海に集合する麻布の種類は大別して春庄、秋庄の二種にして春庄は夏季需用に迫りて產出するものなるを以て品質粗惡なるが秋庄は秋季麻產出に從ひ翌年夏季の需要に應ずるため織出すものなるを以て品質自ら純良なり蘇州地方に於ける產品は種々の種類あるも朝鮮に於ての大分布、中分布と稱するものは多くは之に屬し又江西省產品は朝鮮に於ての廣唐布と稱するものにして其の產額比例的多しといふ而して清國人が普通夏衣に用ふる麻布は朝鮮向に比し品質遙に純良なるものにて價格も從つて高價なるが尚之れが麻布の原料たる苧麻は其用途甚だ廣く年々外國に輸出するの數量は約十八萬擔なりといふ

●總督京都滯在　目下東上の途に在る寺內總督の一行は十九日東京着の筈なりしも今尚ほ京都に滯在し居ると云ふ

●商業會議所總會　既記の如く當地商業會議所は二十日午後六時より臨時總會を開き會頭問題并に二三の事項に付協議すべし

●動亂と清國新聞　清國動亂に際し京城在留清人が漢字新聞を要讀するもの增加せずやと想像さるべきも將來は知らず昨今のところにては其の傾向なきものゝ如きが要するに這は或る一面に於ては各省の獨立を聞きて敢て意を惱ますに足らざるものとなすにあるべく而して京城に來る漢字新聞は大連に發行する泰東日報にて其の數十枚位なりといふ

●ツベルクリン注射に就て（二）　總督府醫院森安富永兩氏談
近來學術の進步と共に熱心なる研究者は「ツベルクリン」注射後に起る副作用の原因を闡明せり勿論結核菌毒のみにても之を注射せば該患者は多少の發熱を見るものなりと雖「舊ツベルクリン」の如く高度の發熱を生ずるは全く其培養基中に存在せる「アルブモーゼ」及び「ペプトン」なる蛋白質の含有せるが爲めなりとせり故に此等蛋白質を含有せざる注射液の創製を企つるに至れり此の主意によりて製出せられたるものをローゼンバツハ氏のツベルクリン及コツホ氏の最新無蛋白のツベルクリンとなす此の兩者は相似たるが如くなるも其製法の異なると共に其性狀全く同一にあらざるなり
コツホ氏の無蛋白質「ツベルクリン」は初めより培養基中に蛋白質を加へず黴菌の生長に缺くべからざる窒素成分として肉汁「ペプトン」の代用に「アスパラギン」を用ひたるものなり
ローゼンバツハ氏の方は以前より用ひられたる培養基に禿髮菌の一種なる「トリコフイトンホロセリツムアルブム」を殖へ十日間位播殖したる後此等の黴菌の浸出液及培養基液を濾過して混入したるものなり此菌の作用により分解せらるゝも結核に對して免疫を起すべき毒素（即ち抗毒素）は侵害せられずして存するものなりと此のツベルクリン液には蛋白質を含有せざるを以て舊ツベルクリンの如く副作用激しからず極量も亦約二倍量に應用し得るの利あり然かも此を實際に應用して經過の良好なるもの多きより近時遍く稱揚せらるゝに至りしものとす然れども全く副作用なきに非らず又如何なる結核患者と雖此の注射に依りて必ず治癒するものと速斷すべきにあらず適劑を適症に應用せざれば爲に此新藥の效果を沒却せらるゝの恐なしとせず效果に就ては叙上の如きを以て其症狀の如何により注射し得べきものなるや否やを診定し注射間に於ても不斷嚴密なる監督の下に副作用の程度によりて注射量を加減し漸次增量して好結果を得るものにして常に千篇一律の下に行ひ難きは勿論なれば注射の希望者に於ても豫め此間の消息を了解し置き一回の注射にて全治するもの〻如く速斷するは山師的者流の言を信ずることなきを希望す云々
因に記す同院に於て現に希望者には實費を以て注射しつゝあり當分の內外來患者には注射を行はず叙上の方針に依り反覆細診の上にあらざれば注射せざるの方針なるを以て必ず入院を要する由なり注射料は病症の程度並回數により多少の差異あるは勿論なれども終了期迄約十圓乃至三十圓を要すと云ふ尤も貧困者にして適應症なれば無料にて注射せらるゝ由（完）

●朝鮮郵船相談會　朝鮮郵船會社發企人等は十九日午後三時より白水に於て相談會を開き會社創立に關する今後の計畫及進行上の方針につき協議決定散會したるが出席者は釜山、元山、鎭南浦、仁川等に於ける重なる營業者なりしと云ふ

●李王の天機奉伺　昌德宮李王殿下には二十日閔長官を代理せしめ山縣政務總監を總督府に訪ひ　天皇陛下の演習地より御還幸に付き天機奉伺方電奏を依頼したり

●荒井度支部長官の東上　荒井度支部長官には愈々二十一日朝當地發河内山書記官を隨へ明年度總督府豫算案携帶し東上することに決定せり

●池田通信局長官の東上　池田通信局長官は二十日午前九時當地發手塚事務官を隨へ東上したり右用務は新任林遞相と事務打合せの爲めなりと

●佐々木代議士の入京　國民黨の代議士佐々木安五郎氏は清國動亂視察の爲め途次廿日午後八時十分着入京すべし

と云ふ

●閔事務官の歸任　新義州に出張中なりし會計局事務官閔令朝雄氏は二十日朝歸任したり

●南日の直通列車乘客　十八日午後八時三十分南大門發長春行滿鮮直通列車にはシンガーミシン朝鮮支配人一名にて又十九日午前〇時二十分長春發南大門着列車には東京駐箚瑞西公使、夫人、令嬢外日本人一名なりと

公人私人

▲金原信藥（藤田組技師）　十八日投宿 浦尾
▲柳原較（南滿日報社長）　同
▲大池忠助（釜山民團議員）　同山本
▲服部友三郎（陸軍步兵中尉）　同原金
▲柳原較、（南滿日報社長）　十九日出發 安東縣
▲神代泰次（辯護士）、　同釜山
▲小鹿島饒（農工銀行開城支店支配人）　同開城

▲京城手形交換高▼
十一月二十日　金高 二〇一、七八九、〇〇〇　枚數 五〇六

▲治外法權▼

何處も現狀維持、現狀維持で、通して行つて、ソレで萬民が滿足するなら、世界のドノ國にも革命はないのだ、トコロが人間は進步の動物、ヤサカに天水桶の水のやうな譯には行かぬ▲早い話が我國だつてソウだ、幕府方の人達は、慶喜將軍が大政返上決行の間際まで、現狀維持乃ち幕府天下說を振舞はして居たのだ▲兎角人間は自分が現在握つて居る物を他人に渡すのは厭なもの、ソコで都合の良い現狀維持說で、自家の勢利を繫がんと欲する▲併しダメだダメだ、世界の大勢はモハヤ小數者の勢利壟斷を許さぬ、支那の天下が滿人から漢人に移るが如き何も不思議はないのだ▲過日も一寸書いたが、支那が共和政治になればとて、我帝國の國体に何等影響の來ないのは確なる事だ、見玉へ、我帝國にペルリを送つて開國を迫つたのは共和政治の米國ではないか、而かも米の共和政体は我金甌無缺の國体に何等惡影響を與へなかつたではないか▲京畿道廳は其雇員に大マイの官金を私消されて居るのを長い間知らずに居て、其オメデタさ加減を告白に及んだ、前に東拓雇員の社金持逃げ事件あり、今亦た本件あり、サテサテ安心のならぬ事だ▲一体雇員なぞに大金を自由にサセルが間違の元だ、剩さへ京畿道廳が前科者を雇員に採用し、ソレに金庫の鍵まで持たせて置いたとは言語同斷の譯で、氣の毒ながら長官檜垣は其責を引かなければなるまい▲御用紙京日が本紙の主張たる制增附農工債劵の發行說に贊したのは殊勝な事だ、度支部當局者も研究ばかりして居ずに實行してはドウか。

●續五藝妓涙の内情

（十）

▽人面獸心の堀内實

（十八日の本文より續く）金奴、金子所屬の寶を依賴せられたる鐵道藥の主人澤田は旣に堀内が如何なる人物なりやは知り居る事とて其の言ふ所を打聞くのみなりしも細説されて見れば無下にも斷り兼ね警察官にもわらねば說諭なぞとは思ひも寄らねど金子等の意見を聞いて見るは差閊ひも無しと寄らず觸らずの返答に堀内は言葉も無く差俯向て居しが突然澤田に向ひ自由廢業が出來るでしょうかとの尋ねに澤田の大出來だとの答へを聞くや『然らば金奴、金子兩人の衣類全部を引つ奪つて置のが上分別だ』と呟くが如く云ひつゝ其夜は引き取りしが翌十六日午後四時頃堀内は雇人の山本孝太郎に向ひ金子等置向の衣裳は既に差押へあるも冬物全部は彼等の手に在れば之れを全部取し來れと命じたり命を受けたる山本は早速玉家席に至り金子、金奴の部屋に入り主人堀内の命に依り此方の衣類を持ち行くべしと斷り兩人の行李に手を觸れんとせり時に金子は精養軒より口が掛り居しにぞ出の衣裳に着換へんとせる時なりしにぞ之れを見たる山本は金子に向ひ其衣類をも渡すべしとて渡し難しと爭ふを無理に奪取せんとする男の力に敵し兼ねて遂に金子は其場に泣き倒れしに山本は元來主人の命にて據なく出向きしことなれば强奪は爲し兼ねて出の衣裳は其儘にし金子が差出す三四枚の衣類を受取りたり金奴は山本に對し衣類は契約上抵當となり居らねば後悔せぬ如にして持つて歸り私の出は簞笥に入つて居るからと云ひ放ちしに暫時躊躇せし後金子が渡したる分だけを持ち去りたる跡にて金子は玉家の主人不在なるにぞ券番取締澤田に逐一當日の始末を物語りしに澤田も今更の如く呆れ果てつゝも前夜堀内より依賴の趣旨を話しけるに金子は彼の委任狀は母を紿き取り來りたるものなれば如何になるとも堀内と共に歸國することは厭なりと斷然言ひ放ちて精養軒に赴きたるが客席に出たる後も彼れは涙に暮れ居たり、彼れ堀内は此れにても尙は改悛の情ありと云ふを得べきか、不埒は同此に止まらず目下金奴は病氣にて日々出町多々見醫師の診察を受けつゝあるが堀内は人をして多々見氏に對し金奴を診察せらるゝも彼は何時逃亡するやも圖られざるを以て堀内方にては藥代其他を支拂はざるに付投藥を見合せられたし引續き投藥せらるゝとも幵は貴家の損失たるべしと申込みしが多々見氏は診察投藥せざる以前ならば格別既に一旦患者として取扱ひたる以上當人より拙者の投藥を謝絕せざる限り藥代の成否を以て拙者より拒絕する筋のものに非ずとて耳を藉さず依然診察投藥しつゝあるなり、多々見氏が醫士としての毅然たる行爲の賞賛に値するど同時に彼れ堀内の血なく涙なき言動は眞に鬼畜と異なるなし、然るに彼れは猶改悛せりと云ひつゝあるなり、以上は彼れ堀内が歸城後の言動の一般なるが又以て全班を窺ふに難からざるべし（つゞく）

●靜江は人身御供

△玉屋席榮次の辣腕

前後の考へもなく榮次の口車に乘りたる靜江は教へられたるまゝを姉のい京に話したるに然る計略ぞありぞと知らぬい京は面白き事にはあらねど花の賣れる事なれば夫も宜しかるべしと承諾したるに榮次は仕濟したりと奧村を勸めて情夫堀田が報嬌を勤むる壽美家を根城に自分は女房靜江は妾と云ふ格に痴けの數を盡し時には藝妓を揚げて遊ぶも宜しと玉屋席の三八萬家の雛子などを聘して高田家精養軒と飲み廻つた揚句は壽美家に引き揚げて雜魚寢なぞと洒落れ居る間も榮次は堀田に怪しまれて愛想を盡されては不可ぬと奧村や靜江の隙を窺いては堀田の機嫌を取り居たり夫れとは知らぬ奧村は榮次や靜江に向ひ落籍して遣るが借金は何程ありやと問ひしに榮次は百五十圓、靜江は五百五十圓と答へしが榮次の借金百五十圓は即時に手渡し靜江の分は近々調金すべしとて袂を探りて一聯の鍵を取り出し此れさへあれば五百圓や五千圓でも一萬圓でも直ちに出て來るのだと微笑せしが今より思へば其鍵こそ京畿道廳の金庫の鍵なりしなり一向無邪氣の靜江は喜び勇み落籍して內地に歸して下さいなれ父さんや母さんに孝行していのですからねと譯も無く嬉し涙を零したるが一方榮次は內心舌を吐き身代金とて渡されし百五十圓にて情人堀田の衣類及び自身は指輪を新調し猶絞れる丈は絞らんと辣腕を揮ひ居たるなり而して彼れか逃擔せられたる十六日の夜は壽美家より精養軒に至り午後十一時頃高田家に席を移し十二時過ぐる迄遊興せしが其內榮次は奧村に刑事の尾行せることを覺りしより此一事より今日迄の秘密が明治町に知れては一大事と奧村が刑事に同行を求められ靜江が呆氣に取られて高田家の玄關に立ち盡せる隙を覗ひ人力車に飛び乘り玉家に立戻りてい京に向ひ實は此頃壹夜私近贔負になる靜江さんの客と云ふが只た今高田家で此れ〳〵斯く〳〵と刑事に引致せられしてと迄落ちもなく物語しを聞きたるい京は寢耳に水、靜江の客とは必得ぬ榮次さんのれ客さんだと私は聞いて居ましたがと不審り問ふを尻目に掛け『姐さんは人が善いよ今の若い妓は油斷も隙もなりませんよ』と夫とは云はねど奧村を靜江の旦那で云ふことにし目身は少しも關係なき如く白々しくも呆惚け居たり、斯くと聞きたるい京は嚇と成り然る關係があつたのなら一應自分に知らすべきを默つて居る主人も主人榮次も榮次別して憎きは靜江なり企み圖つて姉藝妓に沸湯を飲ませるとは憎さも憎しと靜江の歸りを待ち受けたり（つゞく）

●申譯無さの自殺

▽重ね〳〵の不幸續き

十九日午前二時頃龍山元町二丁目七十六番地官舍自宅に於て原籍東京府士族龍山印刷局員杉浦昇吾氏妻女杉浦とよ（二三）が銳利なる剃刀を以て六疊の間にて氣管を切斷して美事自殺を遂げたる椿事あり自殺の原因に付ては區々種々の風說ありて一定せざるも一說に依れば杉浦氏の同僚稻田嘉藏なるものと醜關係ありとの風說に付き深く質問され辭窮し申譯無きまゝ覺悟の自殺を遂げしものなりとも云へり兎に角氣の毒なるは杉浦氏にして同氏は去月二十六日慈母を失ひ其淚乾かざるに又た此事あり其心事察するに余あり

●辯護士殺は無罪か

▽證言悉く被告に有利

安鐘燮外四名の辯護士殺し事件は二十日迄に四回の公判開廷ありて第一回公判より逐次進行するに隨ひ事件は益々煩雜となり既に證人十餘名の喚問ありて其の大部分が被告等の利益の證言にして犯罪事行當時各被告等は證人等と同席して飲酒し其の他事情ありし旨の證言多く或は僞證罪の犯人出來るやも計り難き位に疑問起り居るも未だ一人も告發せられざる處より見ると判官の心證如何に因るならんか二十日午後一時證據調終り同一時半より辯論に移りしが被告辯護人辯護士大久保雅彥氏外鮮人辯護士四人交々無罪を主張したり

仲居評判記

井門本店のれ房

藝妓衆のれ噂は最早珍らしくもなし稀には仲居衆の評判も聞せて呉れさの御注文に從ひ第三番に披露仕るは

今迄御披露したれ仙さんやれ花さんに較べると未だホントの赤兒である、何にせよ仲居に成つたのが本年の八月頃なのだもの、れ房さんの產地は牡蠣と宮島とで有名な廣島縣で本年二十五歲である、至つての新參者であるから餘り多く顏は賣れて居ないが人品の好い優しい人好のする愛くるしい女で三つ指突いて挨拶をする時なぞ料理屋の仲居とは受取れぬ程だから仲居としての價値はゼロである、客の座敷に出ても客が口を利かねば決して自分の方からは話し掛けない默つてれ客のれ咎や口の動き方を研究して居るらしい顏をして居る、琴は他人に稽古をして遣れる程で三味線も一寸出來る、或る藝妓なぞは『れ房姐さんは猫を被つて居るので元からの素人では無いらしい藝妓上りなんだが事情あつて仲居になつて居るのに相違ない』と云つて居るが相違あるか無いかは拙者保證は仕らぬが琴が巧手だからとて藝妓上りと斷定は出來まい、れ房さんの義理の姉さんが總督府の判任官の妻君である緣故からして其同僚の妻君にとて口が掛つて居る、れ房さんは目下盛んに考へて居る、孰れ近々何とか決着するのであらうがウンと承諾さるれば役人の奧さんになるので仲居のれ房ではなくなるのだ、故に本名は預り申して置く

●鮮人の鐵道自殺

▽相變らずの無責任

十九日午後十時十分京義線龍山東幕下契吾井洞鐵道線路內に於て原籍生地不詳住所不定の鮮人金東龍（二〇）が無慘なる轢死を遂げ居りたるを龍山面西江倉前里二十五統三戶黃昌龍が發見したるより龍山署より竹村巡査部長檢視の上血族里道廳田兩銈に引渡したり原因は元來此者は白痴にして少しく精神に異狀ありたりとの事なれば過つて轢死せるものならんと鐵道當局は語り居る

●不始末な兄と弟

元京城南山町に居住せし永井勝定と云ふ男あり太平町の料理店二葉樓の抱酌婦原籍福岡縣鞍手郡屯野村生瓜生はる（三一）に現を拔かし遂に落籍し手活の花と眺め居たりしが家には當年七十餘才の老人ありて余りのはるの不行跡に呆れ果て勝定に向つて度々强意見を加へたるも勝定は却つて老人を邪魔者扱ひにしたる果ては去九月の末つ頃れはると手に手を取て仁川に至り寺町邊に借家して暫時の間は水も洩さぬ程に仲睦しく暮し居たるも懷中次第に心細くなりたればれはるは料理店耶馬溪の酌婦に住込み勝定は知人なる新町の鈴木某より少許の資本を得て同町に菓子屋を營み互に偶の逢瀨を樂み居たりしがれはるは何日とはなく受けし脚疾の重り行きて仁川病院に前後二回の入院を爲し治療を加へたるも尙全癒せざるより勝定は京城の總督府醫院に入院させんと稱し居ながら去月來賣掛代金を取集め其儘一人で逃走し姿を晦ましたればれはるは途方に暮れ居たるを勝定の弟友次郎が介人となり花町の中谷浪五郎（□）とはるとの婚姻を結びたるが病後のれはるも餘りの蒼蠅さに堪へ兼ねて數日前異夜中家出をなし目下宮町の或女髮結の元に潜伏し居るとか

●杉田金之助氏の開業

杉田金之助氏はミシガン大學院、エール大學院に於て最高學位を得ひ歸朝後特許局審查官特に韓國統監府同局審查官として功勞めて大なりしが今般官を辭し法律及特許事務に從事せらるゝとの事斯界に氏の如きを得たるは洵に喜はしき所なり著書又數多わりと

●新聞代を持逃

仁川本町二丁目町田文次郎方雇人原籍愛媛縣西宇和郡伊方村字仁州の濱渡邊凞（二七）及原籍不明高森俊夫（三三）の兩人は同家の新聞配達業に集金係等を爲し居たるに十九日商品短刀一振代二圓五十錢を窃取し尙得意先より新聞代等を詐取し逃走したるより二十日告訴せらる

●自轉車の乘逃

仁川仲町三丁目理髮業沖津方毛谷順藏（三三）は十九日午前十一時五十分仁川本町四丁目貸自轉車業渡邊濟吉方より自轉車一輛一時間借の賃借をなしたるまゝ何處にか乘逃せし故渡邊より其筋へ告訴せり

●芋を盜んで御用

南坡町居住李金鋼（一六）は二十日午前八時半頃米倉町穀物市場に於て吉村タシなる者の芋を販賣中なる隙に乘じ芋一貫目を窃取し南部署に捕はれ取調中

●高野山の說敎

新町高野山に於ては二十日午後八時、二十一日午後二時の二回月並御影供を催し同敎師の說敎詠歌和讃等あるよし

●拾取つた十三圓

新龍山鐵道局ガード附近に於て十三圓餘拾得龍山憲兵分隊にて保管中なり心當りの者は同隊へ申出づべし

●不斷に落す仁川人

仁川郵便局田內館雄は一昨日正午仁川本町より新町寺町等を通行中懷中時計代二十五圓を遺失し屆出づ

●其近所を探らる

京部豆毛坊蠶島鄭興煥（二六）は十八日午後六時頃街路に放尿し北部署に於て笞七に處せらる

●演藝だより

▲壽座● 既記の如く桃中軒雲聊一行の浪花節にして前景氣極めて佳し其重なる讀物は昨紙所揭の如く『大石妻子別れ』及び『大石江戶探り』の二席なりと

▲浪花館● 三遊亭若遊三一行の落語、手踊、喜劇等にて每夜の大入

▲御成座● 其後初日を延期したる同座新浪花節劇タイムス團は愈々廿一日初日と決定せり藝題は既報『武士的敎育』なりと

廣告

一順川政府倉庫新築工事
右競爭入札ニ付ス詳細ハ二十一日以後ノ朝鮮總督府官報又ハ本府若ハ平安南道廳ノ揭示ヲ見ルヘシ
朝鮮總督府

來廿二日午後五時花月に於て同縣人懇親會を相催候間萬障御繰合せ御出席被下度希望候也
會費金參圓也當日御持參の事
御出席の方は不知火旅館（電話一七九番）へ御申込可被下候
熊本縣人會幹事

競賣廣告
一京城本町七丁目九十一、二番戶
木造瓦葺二階建　壹棟
二十八坪七合、二階下廿五坪三合
一同　本町七丁目九十三、四番戶
木造瓦葺平家建　壹棟
建坪十七坪九合
一同　本町七丁目九十五番戶
木造瓦葺平家建　壹棟
建坪十八坪七合
右明治四十四年十二月六日午後二時右家屋現場に於て入札競賣に附す
明治四十四年十一月廿日
酒井致平破產管財人
京城長谷川町二丁目三十八番戶
皆川廣濟

萬漬物問屋
▲東京澤庵▼
嶋屋
京城南大門通り二丁目
電話九〇二番

摘者今般官を辭し一般法律並に內外特許、實用新案、商標等の事務に從事す
前特許局審判官從五位　エール大學（米國法學博士）D、C、L
辯護士特許辨理士　杉田金之助
事務所　東京日本橋區吳服町二番地　自宅　東京府荏原郡大井町字山中

浪花節若手名士吉田奈良男開演
仁川於歌舞伎座
二日目演題
一金子春太郎　吉田奈良義
一竹田八劍士　吉田彌壽春
一ノ傳桃中軒天一　一大和櫻義士の面影二ツ巴　赤穗
一休悟道錄　廣澤月　一日本三馬術曲垣平九郎
大評定大石廊通ひ
◎場代　壹等七拾錢　二等五拾錢　三等三拾錢　小供拾錢

開店七週年紀念大賣出し
寒冷之候各位益々御健勝の段奉慶賀候陳は弊店當地に開店以來七週年以御蔭日增繁榮に相成候段全く御得意樣方御引立の賜と奉深謝候就は平素の御愛顧に酬ゆる爲來る廿二日より一週間左記の通紀念賣出さして特に割引の上聊紀念品進呈仕候間多少不拘御購求願上候
二十二日より二十八日まで
正札より一割引の上
聊紀念品進呈
見切反物釣切澤山御座候
京城本町二丁目
惠阪吳服店
電話七百二十六番

世界無比
淳良清酒
金露
○堺大塚の金露銘酒は今回改良に付て灘釀造酒のみを用ゆる事にせられたり
○大塚釀造場の金露酒は衛生に經濟に嗜好に於て一大良得品なり
○京城に於ける金露特約販賣店の元祖は佐藤牧商店なり
○大塚金露酒最近中味改良の結果買捌高大多數を占めたるは佐藤牧商店なり
○地方御得意樣には中味改良の驗として大割引廉價をして御注文に應じ可申候
特約大販賣
京城本町二丁目
佐藤牧商店
電話二九番　振替京城一九番

旅館　逢萊町　東洋館
○南大門外道路擴張の爲め南大門驛より約西半丁精米所前に移轉營業仕候
○目下南大門驛前に三階建築家屋新築中に有之不日落成可仕不相變御贔負を乞

諸公債諸株券 現物賣買 迅速確實に御取扱可申候
兼業 官衙御用達
京城本町三丁目
大阪野村商店代理店
田中友吉商店 電話(?)

月やくしくし下子宮病を全治す
婦人良藥 商標 中將 日丸
月さらへに日丸に限る
一日丸
子宮病
本舗 名古屋 小林盛大堂

最上山十印醬油
千葉縣銚子町 釀造元 岩崎重次郎
京城本町壹丁目 發賣元 三巳商會 電話七五三番

代理店 京城南大門通三丁目 新井藥房 電話九百四番 振替口座京城十六番
猪飼史郎

代理店 京城南大門通三丁目 新井藥房

移轉廣告
豫て新築中の家屋愈々落成致候間從來の營業所より三軒目の西に移轉開店仕候に付何卒倍舊御引立の程偏に奉願上候
明治四十四年十一月
大平町二丁目三番地(元營業所より三軒西)
東京きそば 更科支店 電話六九八番

營業科目
東京竹内製金庫
東京堀井謄寫版
喞筒並ニ消火器
手提金匣
器械的文房具
複寫紙及複寫簿
弊店ハ前記各品專門的ニ營業仕來故ニ價格ハ概テ内地ト同様ニシテ物品ハ潤澤ニ取揃居候間御注文ヲ乞フ
營業品目録ハ御申越次第送呈仕候
京城本町一丁目 熊平支店 電話六二四番 振替貯金韓國二二番

歐米 嶄新建築材料 直輸
◎マルソイト便利瓦
◎石綿セメント瓦
◎P&B建築用紙
◎P&Bフエルト
◎P&Bアスフアルト
◎吉田木材防腐劑
◎特許自働窓框止
◎建築用金物類
◎壁紙及硝子紙
◎リノリユーム敷物
◎亞鉛打拔中心飾
◎鋼鐵打出天井板
京城永樂町二丁目 東京 藤原京城支店 (電話一八九番)
工事見積等は懇切に御相談に可應候間御用の節は御一報被下度候

商品目録
◎活動寫眞器械◎幻燈器械
◎内外フヰルム◎幻燈講
◎輕便活動寫眞器◎カーバイト
▲其他日鮮人向實用品販賣
▲東京鶴淵幻燈舖京城代理店
兼て新築中の處落成致十一月十五日より開店仕候に付御用命の程奉願上候
京城黄金町三番地 金原商會 販賣部 電話一四三四番 振替口座京城七四九番

小倉齒修所 (伊藤組商店に入る)

政宗 正則 正淸 元道 釀
清酒 味淋 燒酎
酒 小賣壹升に付二十五錢
釀造元 中井酒造場販賣部 電話百七十七番

效能ある温泉
鐵冷温泉
旅館並に浴客席貸
京城長谷川町一丁目(朝鮮銀行北横手)
廣安喜次郎 電話一四二一番

高等清酒
サワノツル
發賣開始
攝津灘新在家 石崎合資會社釀造
一手大卸賣
仁川本町
河野本店 電話(二八)番

仁丹
三輪井上兩博士方劑
消化と毒けし
ジンタン 仁丹
主効 ●食慾不振 ●頭痛目眩 ●時候傷り ●嘔吐下痢 ●船車の暈 ●腐疫豫防
仁丹は此工場に於て嚴正なる監督の下に絶對に精製せらる
故に藥効最も的確なり
即刻御服用あれ
◎下闢は仁丹の工場縮圖して明劇に掲せるもの也
●凡例 森下製藥場 位置大阪東區 建坪數三千百坪 機關五十馬力
製藥部 機關室 倉庫 事務所 食堂 社宅
代理店 京城南大門通三丁目 電話九〇四番 一〇六八番 振替口座京城十六番 新井藥房

英國製 SWEET HOME BIRMINGHAM ENGLAND
直輸入新荷着
車體堅牢にして優美
スヰトホーム號
歐米各國自轉車直輸入商
京城本町二丁目 織居商店自轉車部 電話四八〇番

開店滿五週年
弊店獨得の抽籤大賣出し
自十一月二十日至同月二十八日 九日間
五週年間特別なる御引立の御報恩として右期間内は現金に限り左記品物何品に拘らず抽籤にて大割引致します
綿類、夜具地類、吳服類全部
特等メリヤス類、上等厚司類
商品切手發賣仕候
見切反物釣切山程取揃居候(但此分に限り割引不致候)
京城明治町一丁目 唐川吳服店 (電話二六一番)

M.C.C.
土耳古 紙卷 煙草
エムシーシー
專賣局定價は百本に付金五圓貳拾錢なるも朝鮮内は大安賣
京城、平壤 龜屋……釜山、木浦、群山 高瀨支店

誠ハ弊店ノ主義也
登録商標
釀造元
仁川港宮町三丁目
深見勝三郎
電話二四八番 電信略號(フ)

牛馬犬猫 治療所
入院隨意
京城明治町三丁目 院長 小川鳥太郎 小川家畜醫院 (電話四二七番)

酒精アルコール
新荷着 仁川花町一丁目(電話六五〇番) 堀■支店

弊館には夜醫の設備有り
陸軍指定旅館 仁川海岸
鐵道院指定旅館
仁川水産組合指定旅館
保險會社指定旅館
御客様の安全此の上なし
旭屋旅館 電話二五一

東京流納豆大安賣
御料理向
特製 實味噌
味噌製造 漬物問屋 仁川本町三丁目 たからや 電話七三番

本場精撰
茶
右銘茶各種新物續々入荷に付卸小賣とも大勉强仕候間多少に不拘御用命願上候
仁川本町四丁目(府廳前) 田中芳春園 電話四五〇番 振替京城五〇二番

特約販賣店 仁川 高雄支店

弦齋流割烹 す津祢 南山町一丁目 電話千五百二番

磨擦白粉 龍山横...

キ
十一月中 滊船出帆廣告
成歡丸 十一月廿一日 濟州島行
天草丸 十一月廿三日 濟州行
三省丸 十一月廿三日 南市行
安東丸 十一月廿八日 海州行
三登丸 十一月廿三日 鎭南浦行
仁川本町四丁目 電話一七〇
合資會社 秋田商會船舶部